

交通局

1 経営改善について

■質問

累積損益は膨らむ一方の交通局は、新たに「神戸市営交通事業計画2015」を策定中で、

その中で自動車事業では単年度黒字の確保と累積資金不足の縮小、高速鉄道事業では黒字確保と海岸線ランニング収支の均衡という目標を掲げている。これらの目標を達成できても累積損益の数字が大きく改善されることはなく厳しいことにかわりはない。公営企業として存続するため、相当の取り組みが必要だが、決意をお聴きしたい。

■答弁(吉武局長)

何よりも重要なのが経営の効率化だが、業務量の見直し、嘱託職員の活用等で職員数を10%削減する。特に自動車事業では市バス営業所管理委託の継続、路線の委託拡大に取り組まなければならぬ。高速鉄道事業では資本費負担が非常に大きく、純損益の赤字額の増加を抑制するよう取り組む。海岸線全駅で駅業務の委託の継続をし、今後大規模な改修が見込まれる施設・設備は計画的な更新・改修によって経費の削減に取り組む。

この施策を早期に実現し、何とか経営を維持できるよう職員一丸となって取り組みたい。

2 地下鉄海岸線の乗客増対策

■質問

海岸線の乗客増のため、現在の利用の傾向のマーケティングが重要である。従来の利用者へのアンケートではなく沿線住民に対して調査をしてはどうか。新長田の再開発地域を中心に人口は微増しているのに利用者数が伸びないことから、利用していない方はどういう交通手段を使っているのか動向を分析してはどうか。

■答弁(吉武局長)

現在のお客様アンケートにはサービス面を中心に質問をしているが、指摘を踏まえて利用促進につながる視点での質問も検討していきたい。また今年度から沿線の企業を訪問して通勤の実態のヒアリングを行なっているが、商店街とか店舗にもひろげたい。

3 「清盛」を活用した乗客増対策

■質問

海岸線沿線にはドラマ館・歴史館が設置され、源平の史跡も多い。関連の企画乗車券の発売や、駅でのPRなど、KOBEDe清盛キャンペーンを盛り上げて沿線地域の活性化や乗客増につながるチャンスである。清盛観光には海岸線をとこの呼びかけが観光ツールの中に落とし込まれるよう他局と十分に連携ができてくるのか。

■答弁(吉武局長・小林次長)

清盛関係の企画乗車券「神戸街めぐり1dayクーポン」がドラマ館と歴史館の入館にも使えるようにした。三宮・新神戸・須磨浦公園ぐらゐまでの間をエリアとした企画乗車券で、ドラマ館や歴史館の入場券もセットになったものも考えている。ムードを盛り上げるためハーバーランド、中央市場前の両駅は清盛のイメージが出せるようなデコレーションを工夫していきたい。

また、産業振興局には観光パンフレットやマップにも最寄り駅やバス停の明記をお願いをし、交通局は駅やバス停からの史跡案内、表示案内の設置を進めるよう連携する。

4 長田区の市バス路線について

■質問

新長田駅は地下鉄やJRが接続するターミナ

ル駅であり、周辺には行政の拠点、商業施設が集まっており、行政の行なうイベントも多くがこのエリアで開催をされ区民にとって訪れる機会が多い場所であるにもかかわらず、鉄道や徒歩での移動手段がない区内の地域からのバス路線が便利と言えない状況がある。終着が板宿だったり、鷹取駅方面で乗り換えが必要では利用しにくいという声を聞く。副都心新長田を開発しながらそこへの足がないという矛盾をおこさないよう路線編成を考えるべきではないか。

■答弁(新屋自動車部長)

長田区山麓地域からはかねてから強い要望があり、新長田駅に接続する1-3系統、現在の1-3系統が平成19年にできた。さらなる増便を求める声もあるが、可能な限りのスリム化を図る中で現在の車両・人員について最大限活用しているのが現状があり、他路線への影響など考慮して検討する必要がある。今後のお客様の利用状況も把握しながらご意見・ご要望に研究を図っていく。



その後

23年10月より8系統等も変更となり、広い地域で影響がでていることから多くのご意見・ご要望をいただいているところです。経営改善を進めるなかにも市民の足が守られるよう共に方策を考えてまいります。